

## 1 部門目標

- (1) 入院診療の拡大
- (2) 下肢外傷手術の受け入れ

## 2 業務体制

整形外科は運動器官を構成する骨・筋・神経等の疾患・外傷を診療対象とした運動器学である。整形外科では、これら運動器の診療を通じ、市民が健康で安心できる生活を送れるようサポートすることを診療の目標としている。超高齢化社会に突入して久しい本邦では、整形外科に対する社会的ニーズは非常に高い。当院も地域の期待に応えるべく、新病院移転も視野に、診療体制の再編と拡充を開始した。

当院は整形外科診療の中で、入院・手術を要する患者さんの急性期治療を担う。近隣の整形外科診療所と連携を密に取りながら、入院や手術が必要と判断される患者さんの受け入れを積極的に行えるような体制の整備を進めている。

急性期の診療を遅延なく行うため、病状が安定した患者さんは診療所に紹介する流れを整備している。また、リハビリテーション病院との連携を強化している。地域連携部の支援の下、スムーズな転院調整を行う。患者さんが早期の社会復帰や運動機能の再獲得を目指せるよう病院間連携体制の強化について推し進めている。

医師；河野 元昭（平成 10 年卒）、平岡 祐（平成 26 年卒）

## 3 診療実績

令和 6 年 年間手術件数 137 件  
(参考：令和 5 年 年間手術件数 39 件)

## 4 令和 6 年の総括

令和 6 年 4 月より常勤医が 2 名体制となり、以前よりも救急の診療依頼を受けることが可能となった。また、機材を整備し、目標に掲げていた下肢外傷手術

を開始することができた。高齢者に多い大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折の手術治療も可能となり、多くの患者さんを受け入れた。結果、入院数、手術件数とも大幅増となった。

## 5 今後の目標

次年度以降、脊椎脊髄領域、下肢関節領域の専門医を招聘し、受け入れ可能疾患領域を拡大する。外傷、救急疾患のみで無く、変性疾患に対する入院手術治療に力を入れ、予定手術の増加を目指す。また、次世代の医師への教育体制の充実を図り、長期的な視点で当院の整形外科診療体制の確立と安定化を目指す。